

# 令和5年度 第42回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

## ジュニア新人の部 南北北海道予選会 競技・審判上の注意

この大会は、令和5年度（公財）日本バドミントン協会競技規則及び大会運営規程並びに公認審判員規程、北海道バドミントン協会が定める競技・審判上の注意、レフェリーからの競技審判上の注意と確認等に則って行う。

### 1 全般的事項

- ① サービス高を1.15 ㍎に固定するルールを適用する。ポストにコート面から1.15 ㍎高さのところにテープでマークを付け、そのマークを基準にコート面から1.15 ㍎の高さのところに水平面をイメージし、判定する。サービスジャッジは配置しない。
- ② 試合進行はできるだけタイムテーブルにそって進めるが、時間短縮のため、コートが空いたら随時試合を入れていく。時間・コートの変更がありえるので放送に注意し、すみやかにコートに入ること。
- ③ 試合が連続する場合は、前の試合の後、10分間を確保して次の試合のコールを行う。
- ④ コートへ入場する際は、トーナメントで上に記載されている方が主審の左側に入ること。
- ⑤ 競技中の服装は、大会運営規程第23条によるものとする。上位の背面中央部には、中学生は（公財）日本中学校体育連盟バドミントン競技部申し合わせ事項、小学生は小学生バドミントン連盟が定める基準に従って校名（クラブ名）及び氏名等の表示をすること。ゼッケンは、四隅を留めることとする（背面表示がある上衣は、ゼッケンで全て覆い隠すこと）。
- ⑥ 表彰、入退場、試合の挨拶の際は、マナーとしてウェア（上衣）の裾は下衣の中に入れること。
- ⑦ 試合中の水分補給は、基本的に主審が汗拭きを認めた際に、試合進行に影響が出ないように素早く済ませること。飲み物はスクイズボトル（水筒）に入れること。フロア内では、試合中の水分補給以外の飲食は認めない。
- ⑧ 今大会はコートサイドにカゴを用意しない。タオル、スクイズボトル、滑り止めなどはまとめてバッグに入れ、コートサイド（主審のそば）に置くこと。また、その他の物はコーチ席で保管すること。なお、交換用ラケット（ケースから出しておく）はバッグの上に出しておくことを認める。
- ⑨ ハードタイプのクーラーボックスの持ち込みは禁止とする。氷のうは、ソフトタイプの保冷バッグに入れ、コーチ席で保管すること。
- ⑩ うちわやハンディファンなどの風が起こるものについては、インターバル時のみ使用を認める。ラリー中はコーチ席においても使用しないこと。叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
- ⑪ コーチ席は2席とする。コーチ席の椅子は、チェンジエンスごとに持ち歩かず、そのまま置いておくこと。
- ⑫ ベンチまたはコーチ席に入るときの服装は、公認審判員規程第5条第12項第8号に従い、試合にふさわしい服装で臨むこと。
- ⑬ 審判の判定に対して疑問があるときは、個人戦の場合は当該プレーヤーが質問できる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。（大会運営規程第6章第36条）
- ⑭ 原則として試合に負けた選手の引率者（IDが発行されている大人）が主審をすることになるので、試合終了後、直ちに本部席まで来て下さい。また、敗者選手には得点係をお願いします。線審は主管地区協会が担当します。
- ⑮ 審判団は各試合主審、線審2人、得点係1人を配置する。サービスジャッジは配置しない。
- ⑯ 試合中のけが等の応急処置は主催者および救護担当が行うが、その後の処置は各自の責任とする。
- ⑰ フラッシュや、ライトを点灯させての撮影、および、競技フロア内での撮影は禁止とする。
- ⑱ 別紙「改訂 競技・運営上の注意」と、プログラムの「レフェリー（競技役員長）から競技審判上の確認と連絡」を熟読すること。

### 2 試合に関する事項

- ① コーチ席に入れるのは、IDが発行された者2名以内とし、必ずIDを付ける。また、インターバル中のアドバイスも同様とする。